月 刊

こ こ ろ の と も

自分のものではない

業の深さ

この業たるや	平然と	求める人が	自然食
--------	-----	-------	-----

『老子』解説(二〇)	みたい人は(ニー)	人生を考え直して
	$\mathbf{\bigcirc}$	

今月号は第七十七章を取り上げます。

だから、聖人は偉大なことを為しとげても、その
るのは、ただ有道者のみです。
天下の人々に献上できるのでしょうか。それができ
いったい誰が、有り余るほどもっていて、それを
ています。
いものから減らして、それを有り余るものに献上し
ところが、人の道はそうではありません。 足らな
इ
り余るものを減らし、足らないものを補って行きま
ようにするのです。これと同じように、天の道は有
余ったところを減らし、足らないところはつぎ足す
ろは押さえつけ、両端の低いところを引き上げて、
ものではないでしょうか。真ん中の高く反ったとこ
(第七十七章)天の道は、ちょうど弓を張るような

ことをたのみとせず、

功成りても、

その地位にとど

そこでは、 したがって、完全に「有り余るものを減らし、足らない 大地震が起ころうが、自然の起こるままに起こるのです。 雨が降ろうが、 生命が滅ぼうと、なるままになるのです。 な動物が栄え、どんな動物が滅ぼうと、 のものとして、価値判断を伴うことはありません。どん こでどんなことが起ころうが、どこまでも自然の営みそ きわめて抽象的です。 を補って行くとはどんなことなのでしょうか。いずれ らすとはどんなことでしょうか。さらに、足らないもの ょうか。きわめて抽象的です。また、有り余るものを減 らし、足らないものを補って行く」ということです。 えることを少し解説しておきます。 しいところはないのではないでしょうか。 私たち人間の意識を超えた、 ところで、この「天の道」とは、どんなものなのでし まず、はじめの主題は「天の道は、 1 1 まりません。 この章は、『老子』の中では有名な章です。 のです。 自 然の営みとして、 かんばつが続こうが、大風が吹こうが、 己の賢さを外にあらわそうとは望まな 自然の営みであれば、そ 仏教で言えば「縁起」に 有り余るものを あるいは全ての あるいは、 ポイントと思 あまり難 大 も 減

ものを補って行く」と言ってもいいと思います。
ところが、そこに人間がからみますと、話が違ってき
ます。かんばつになってもらっては困りますし、大地震
が起こってもらっても困るのです。まして、この地球が
滅びるようなことがあってはなりません。
なぜなのでしょうか。
それは、人間が意識をもっているからなのです。生き
ていることを自覚できるからなのです。相対な存在(こ
の地球を含めてあらゆる存在)は、いつかは存在しなく
なって(死んで)行かなければならないのですが、人間
はいつまでも存在していたい、生きていたいと思うこと
ができるからなのです。
それは、いわば自己への執らわれをもっているからだ
と言えます。仏教で言えば煩悩をもっているからなので
す。私のモデルで言えば、「 自己」のモーメントを持っ
ている、特に無意識の中に生命蔵識を宿しているからな
のです。
ここに、次の主題である、「人の道は・・・足らない
ものを減らして、それを有り余るものに献上」するとい
うことが起こってくるのです。
力のあるものは、生命蔵識の命ずるままに、自己の生
存の可能性をどこまでも伸ばそう、拡大しようとします。

ント、 的 で、 と も でも、 能 ば っているのです。 えています。ですから、 は限られているのに、 せています。 に繁栄し、 も力をもつ存在となり、 す 否すれば、すぐに、 献上させられることになるのです。 っていかざるを得ません。 11 が悪だとは にあげれば、どれほど飢えから救われるか分かりません。 合理的 この現実は、 性を追求し、 自己」を追求しようとするのです。 かなる社会体制であろうと、その体制 そうなりますと、力のない者は力のある者の 力によって、 人間として当然のことなのです。 人の道はそうはなりません。 いや残飯に当たる部分でも、 • 現在の体制の許す範囲で、 合法的に、当然なこととして、 誰も思い 例えば、 力のないものから、 L١ 献上させるのです。 もし、 まも変わってはいませ 戦いや無法や死に結びついて行きま ませ 食料ですが、人間の食べられる量 輸入する食料の量はだ その力によってますます経済 ĥ 贅沢をしないで、 増えるうちの多くは、 足らない どこまでも、 飢え死にしている国 力あるものが、いわ く者が、 たとえ飢えていよう もし、 世界中から献 しかし、このこと の h 許す限界内で、 その数パーセ 自己の生存可 合理的・合法 その献上を拒 有り余る者へ 現 んだんと増 ヶ 在 、 犠牲に 残飯に 日 上 さ な 的 本 な

つよ	しま	人	Ŋ	す る	蔵 識	言 い	われ	前	が で	労 力	大 の	体得	得 す	こ	ਭ	の 解	は疎	でき	と し	あら	特
う	し	間	ひ	こ -	-	ま	を	に	き	を	道	し	る	с Г		体	遠	る	τ	ゆ	Ę
にも	た が	は 動	と の	とな	と「	す と	捨 て	も 述	るよ	含め	を 実	た 人	こ と	で 老		を 阻	にな	よう	いま	る 人	現
進	<i>'</i> ,	物	悲	Ø	自		た	ベ	う	τ	践	を	が	子		止	IJ	に	す	が	在
化	同	か	し	です。	5	「	2	ま	にた	` 	レ	老	で	が		す	` + ۱	なっ	ŕ	、 ++	は
して	時 に	6	み が	9	。 こ の	、「他己」	ころ	し た	な れ	困っ	ζ	子 は	き ま	言っ		るこ	社 会	っ て	、 先	昔 の	世 界
1 1	そ	意	我	そ	無		に	によう	S N	τ	贅	有	す	τ		と	体	11	進	Ξ	中
るの	れけ	識	が 悲	こけ	意	E I	あい	うに	、 ک	۱۱ ح	沢を	道 者	が	11		はズ	制	ます	国	さま	が
の で	は 自	を 持	лек U	ц ,	識に	メン	りま	Ę	11	る 人	を 戒	ョと	へ 本	るこ		でき	を い	す。	では	ょ の	「自
ਰ ੍ਹ	己	つ	み	ひ	あ	ン	ਰ੍ਹ	天	うこ	さ	Ø	呼	文	と		に	か	そ	多	よう	5
生	だけ	こ と	であ	と の	3 「	トの	そ	の 道	こ と	まの	、 生	びま	にあ	ц		< <	に エ	の 結	く の	うに	亡社
ェき	で	が	る	喜	生	無	n	虐と	な	の為	エ活	す	i)	私		ヽな	上夫	品果	人		社会
τ	は	で	世	び	命	意	ц	ц	の	に	に	\checkmark	ま	た		っ	し	`	は	自	に
いた	な く	きる	界 な	が 我	蔵 識	識に	私	自	です。	差 し	余っ	そう	すよ	ちは		て 来	よう	人 々	そう	己 を	傾い
11	ì	らよ	の	が	пци L	あ	の	E	°	Ŀ	た	つな	よう	天		ホて	ع	х О	す	追	て
と	他	よう	です	喜	と	る	Ŧ			げ	もの	る	Ę	σ		11	ŧ	結	る	求	11
意 識	己 を	に 進	す	び で	を 統	「 如	デル	の 執		るこ	の は	と き	道	道 を		る の	社	びつ	こ と	しょ	ます
で	持	化		っあ	合	来	で	5		٦	100	2	を	体		で	会	ž	が	よう	す

れは、 然は、 くなることでもあるのです。 よいのでしょうか。 のです。それは自己の命についても言えることです。そ の力を超えて起こることには、 なりません。 でもあるのです。 と情動を共有することで、自己を安定させるということ が生きることを自覚して追求できる人間にとっては、自 と呼んでいるというわけです。 られているのです。 と同時に、 いとすれば、 まず、 では、自己への執らわれを捨てるためにはどうすれば そうなるためには、 これが、 人間は、 人さまの役に立たなけ 自己が生きると同時に、 大切なことは、老子のような聖人の言うことを 人間の自然なのです。 精神的 自分が生きていたいと意識することができる 自然現象として起こることのような、 人間社会は滅亡する以外にありません。 に他者なしでは存在できないように創 その心を、 自己への執らわ れば、 自己の 従順でなければならない 私は「自己」と「他己」 天の道なのです。 もう生きる必要がな れを捨てなけ 心を開いて、 自己 自己 他 者 れば

- 4 -

きる人間が、

他己を欠き、

自己だけしか与えられてい

な

とです。ひたすら努めることです。どこまでも、どこま

信じることです。そして、

それを実行しようと努めるこ

ました「社会体制」は、この、人が踏み行うべきだと、
ある、と考えて頂きたいと思います。本文の解説で述べ
人の踏み行うべき道、難しい言葉でいいますと、人倫で
ます人の道とは少し違っています。ここでいう人の道は
ただ、いま述べています人の道は、この章で使ってい
道が天の道とならなければならないのです。
と、実は、天の道は人の道でもあるのです。いや、人の
ここで、老子をもう少し敷衍(ふえん)して述べます
ろん、もらわなくてもよいのです。
ー ベル賞をもらわなくてもよいのです。文化勲章ももち
そうなるとき、誰に認められなくてもよいのです。ノ
自分自身が絶対な境地に至れるのです。
です。仏さまという絶対な他者に自己を定位さすことで、
さまとが一体になることによって安定していられるから
それを頼りにしなくても、自己と自分の心に宿した仏
することがない」というようになって行くのです。
すように、「偉大なことをなし遂げても、それを頼みと
そうしているとき、はじめてこの章にも書いてありま
व ु
には、既に紹介しましたような「修行」が含まれていま
そうなることを信じて、必死に努めることです。その中
でも努めることです。たとえ直ぐに実現できなくても、

ガがいります。どうぞ皆さん、お励み下さい。その為には、修行がいります。瞑想がいります。ヨー
老子の言うように「有道者」となることです。
これを超える道は、多くの人が、特に力を持つ者が、
いのです。
とです。ですから、もっと些細な約束事は言うに及ばな
なかれ」や「嘘をいうなかれ」などでも、当てはまるこ
事情は、「殺すなかれ」だけにとどまりません。「盗む
これまでの人類の歴史を見れば一目瞭然です。こうした
はかなくも踏みにじられてしまうのです。そのことは、
それに対する復讐・制裁、といった「自己」の追求で、
・経済欲)、性欲(子孫繁栄欲)などの欲望や、恨みと
いますが、この約束は、優越欲(権力欲)、食欲(物欲
は「殺すなかれ」という共通普遍な「人の道」をもって
でも、はかなく踏みにじられていきます。例えば、人類
でも、こうした約束は、力のあるものによって、いつ
व ु
らを貫くものは、人と人とが交わす社会的な約束なので
風習であり、伝統であり、道徳であると言えます。これ
それは、社会規則であり、法律であり、制度であり、
定されているものです。
その時代に考えられていることに基づいて制定ないし設

列こもれず、設々と進歩してきました。そのお陰で、人現代は「科学・技術の時代」と言えます。 医学もその死が不在になった家庭
寿命も大いに延びました。昔ですと、成人するまで
は、半分の子どもは死にましたし、七十歳は「古来稀な
」とされるほどでしたが、いまや平均寿命がの
こ、思想の生きは、弱視感を診察すた、みたの越える人も少なくないというほどになりました。
また 固学の進步に 洞防図療を発展させ 多くの
が病院で死ぬようになりました。 昔ですと、 畳の上で往
生したい、というのが大抵の人の願いでしたが、今の若
い人にはそんな考えは無いようです。ですから、抵抗な
く病院で治療を受けながら死んでいけるわけです。その
方が、医者にとっても色々な臓器を提供してもらうチャ
ンスも増えて、都合がいいのだと思うのです。
さらに、今は、平均寿命が延びたこともあって、老人
福祉が発達し、多くの老人は老人ホームで面倒をみて頂
くようになりました。老人性痴呆などになって医療のい
るような老人も、例外ではありません。死に至るまで、

自

作 随 筆

· 選

れは、 は あ なってしまいました。 と言えます。 体験することができた、 行くことが、どんな意味をもっているかについて、 して来た、ということなのです。 方にとっても、死ぬことが大変なことであることを経 生のどこかの時点で、 か関わって世話をし、老人もその世話の中で、多くは での死の体験を大変少なくしてしまいました。 の 意 気になること、あるいは、 しみながら死んでいきました。 そこで面倒をみて頂けるということです。 昔は、 救われませんが、まず信じることが必要なのです。 るのです。 味を知る体験も無くなってしまった、ということでも ところが、 そして、そのことは、人生において、 こうした現代の医学や福 Ø 人間が真に幸せになるためには、 存在とそれへの 同時に生きていることの意味を知ることでもある 老いて病気になりますと、 いまは 前述の通り、 信仰が欠かせませ ということは、 死ぬ当人にとっても、 ということでもあるのです。そ その結果としてやがて死んで 祉の進歩は、結果として家庭 それは、多くの人が、人 家 家庭で皆がなにが 自分の力を超えた 庭の中から死がなく 自分の生きている h 老いることや 信じただけで 世話をする

自ら

病

験

苦 し

も

ジジオにてた	道連れこすな	いし行	こうろう 虫 2 テナード	てきり ひしろき	平等は、出会りず、個社が者	やころう 憂れた皆こ いんりょう しきかい		つきらました。うつ	え えんしょう だんしょう だいしん しんしょう しんしょ しんしょ		ו ז	虫)テナ		自作詩短歌等選		も不幸なことのように思えてなりません。	きなくなって来ているのです。人間にとってこれはとて	とによって、自分の力を超えたものを実感することがで	とができる、最大の機会となる死が家庭から無くなる	なのに、いまは、自分の力を超えたものを体験するこ
		社会の崩壊	個人の不安	個人の疎外	個人の孤立	個人の権利	個人の自由	個人の尊重	個人の尊厳		という	売り物にすべきものだ	それは	という	欠点は個性だ	いま	τ	での欠点は個性	3 L	IJ
鳥七羽	大空渡る	月残る		大空の鳥七羽			真の愚者なり	その時愚者は	思うなら	自ら賢者と	もし愚者が	賢者なり	すでにその時	思うなら	自ら愚者と	もし愚者が	法句経(六三)		真の愚者	

ー 疲 夜 人 眠 里 れ 長 に とり い に ては	背 宿 生 自 垢 合 方 市 市 坊 ち の 仕 仕	こ 現れる こころは姿勢に	強 ス 大 ス い スポーン イしてい る
は 長	5	ころは	ポーツ
れた人	き方問われ	れ	してい
里は遠	命		ポーツで
	負 い	こ ろ	い 者
正しくも	生きし	まがっていれば	弱い者に
真理知らない	人でさえ	姿勢も	勝つ
者にとり	垢に安住	まがってくる	
生死の道のり	していれば		いま
長きものなり	不安を逃れ	こころを	いじめが
	日常に	なおすには	大流行している
	堕落ができて	まず	いじめでは
秋の風	暮らせおりけり	姿勢を	強い者が
		たださなければ	弱い者を
中秋と			いじめる
思えば急に			
秋の風			

釈 尊
の
こと
ば ()
三 九)

られた良い馬のように勢いよ法句経解説

<

 $\widehat{}$

Л

匹

鞭

を

あ

τ

1 1 — 務 ぬ 苦し を完成し により、 信 め 仰によ 励 み め を ۲ 除く た人々は、 Ŋ 真 理を 戒 確 め かに知 に より、 思念をこらし、 ることにより、 は げ みにより、 この少なから 智慧と行 精 神 統

「鞭」は「世間の非難」にあたっていました。このたとえでは、「良い馬」は「解脱した人」にあたり、ように」という出だしの比喩と同じ言葉が出てきました。一つ前の(一四三)でも「良い馬が鞭を気にかけない

ら い は 素 11 敢 ように」では、 ない 馬」 直 世 え し て言 かし、 な修 に考 間」 でしょ は「 Ę 行 えたらよい 11 この偈のたとえの「鞭をあてられた良い馬 者 素直な修行 ま -うか。 Ŕ すと、「 素直 同じ意 勢 な 前 いよく務め励 . と 思 い 修行 心味では 師 Ø 者」、「 匠 (一四三) 者 の ます。 「 師匠 教え」 あり 鞭 は ませ む -の 偈 は が 解 脱 ٦ 自 と 読 h 師 匠 分を定 を と対応させ Ø し 目 指 教え ここでは「 め თ ば う教え」 位 を信じる し よ はすべき てい L١ Ę の で ぐ 良 る Ø

> 者」 る IJ し のです。 難 た人とその 次の段落に進み いことに、 に当たってい 教えを信じ、 既に限りなく解脱に近づいていると言え ま ると考えることができます。 す。 こ ひ თ 部分では、 たすら修 行に励 幾 つ むとき、 か 人 が の条件 解 を 有 脱

ができる、と述べられています。満たして、智慧と行いを完成すれば、苦しみを除くこと

の原理を知ること、です。 選すること、 禅定(ヨーガ)をすること、 宇宙根その条件とは、 信じること、 戒律を守ること、

源 精

ひ うと思えばできないことではないのです。 誰でもはできませんが、これらの条件は多くの人はやろ とか、マラソンで二時間三十分を切れと言われましても 出来ないことではありません。 たすら続けることはとても困 こ れらは、 一つ一つはやろうと思えば、 難なことと言えます。 百メートルを十 でも、それ 大抵 砂で走 の人に を n は

それ で言 られる人はめったにい とだというだけです。 もやろうと思えばできることの中にあるのです。 智 をひたすら続けることは、 11 慧と行いの完成、 ますと人格 Ø 完成にあ つまり、 これら ないのです。ですから、多くの場 たり の一つ一つを、 実は、 L١ ź まの す が きわめて困難なこ 教育基本法の言 それは ずっと続 ただ、 誰 け で 葉

いう部分が大切です。	分かりにくい言葉は、ないと思います。大切なのは、		、慎み深い人々は自己をととのえる。	くる人は矢を矯(た)め、大工は木材を矯(た)め	(一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢をつ		んが、彼らにはその意識すらないようです。	進もしません。まさしく、末法と言わなければなりませ	を平気で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、精	侶さえも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこと
は六波羅蜜があります。もう一つには十善戒があります。仏教に即して申しますと、有名なものとして、一つになのでしょうか。では、自己をととのえるとは、具体的にはどんなこと	六波羅蜜があります。もう一つには十善戒があります。もう一つには十善戒がありますと、有名なものとして、一では、自己をととのえるとは、具体的にはどんなう部分が大切です。	六波羅蜜があります。もう一つには十善戒があります。もう一つには十善戒がありますと、有名なものとして、一では、自己をととのえるとは、具体的にはどんなう部分が大切です。 この中でも特に「自己をととのえる」後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」	六波羅蜜があります。もう一つには十善戒があります。もう一つには十善戒がありますと、有名なものとして、一つでしょうか。 ところです。この中でも特に「自己をととのえる」 後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」 後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」 分かりにくい言葉は、ないと思います。大切なの	六波羅蜜があります。もう一つには十善戒がありま う部分が大切です。 この中でも特に「自己をととのえる」 のでしょうか。 のでしょうか。 、慎み深い人々は自己をととのえる」 、慎み深い人々は自己をととのえる」	六波羅蜜があります。もう一つには十善戒がありま 、慎み深い人々は自己をととのえる」 、「しいにくい言葉は、ないと思います。大切なのう部分が大切です。この中でも特に「自己をととのえる」 そころです。この中でも特に「自己をととのえる」 のでしょうか。 、「しいにくい言葉は、ないと思います。大切なの う部分が大切です。 、「しいにくい言葉は、ないと思います。大切なの う部分が大切です。 、「しいにくい言葉は、ないと思います。大切なの う部分が大切です。 、「しいにくい言葉は、ないと思います。 大切なの くる人は矢を矯(た)め、大工は木材を矯(た)	六波羅蜜があります。もう一つには十善戒がありま 、慎み深い人々は自己をととのえる。 、慎み深い人々は自己をととのえる。 、 していってす。この中でも特に「自己をととのえる」 後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」 では、自己をととのえるとは、具体的にはどんなう部分が大切です。 です。この中でも特に「自己をととのえる」 のでしょうか。 のでしょうか。 (一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢を	六波羅蜜があります。もう一つには十善戒がありま 、慎み深い人々は自己をととのえる。 、慎み深い人々は自己をととのえる。 後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」 後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」 では、自己をととのえるとは、具体的にはどんなう部分が大切です。 この中でも特に「自己をととのえる」 のでしょうか。 、「一四五」水道をつくる人は水をみちびき、矢を	が、彼らにはその意識すらないようです。	波羅蜜があります。もう一つには十善戒がありキャッシュでしょうか。 「四五」水道をつくる人は水をみちびき、矢を 「四五」水道をつくる人は水をみちびき、矢を 「四五」水道をつくる人は水をみちびき、矢を 「四五」水道をつくる人は水をみちびき、矢を 「四五」水道をつくる人は水をみちびき、矢を 「日己をととのえる」 の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」 の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」 の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」 しません。まさしく、末法と言わなければなり	波羅蜜があります。もう一つには十善戒があります 、彼らにはその意識すらないようです。 、彼らにはその意識すらないようです。 ころです。この中でも特に「自己をととのえる」と の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる。 「四五」水道をつくる人は水をみちびき、矢をつ ってしょうか。 でしょうか。 ないと思います。大切なのは がりにくい言葉は、ないと思います。大切なのは の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と の部分が大切です。
仏教に即して申しますと、有名なものとして、一のでしょうか。では、自己をととのえるとは、具体的にはどんな	仏教に即して申しますと、有名なものとして、一のでしょうか。ところです。この中でも特に「自己をととのえるとは、具体的にはどんなう部分が大切です。	仏教に即して申しますと、有名なものとして、一のでしょうか。ところです。この中でも特に「自己をととのえる」後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」分かりにくい言葉は、ないと思います。大切なの分かりにくい言葉は、ないと思います。大切なの	仏教に即して申しますと、有名なものとして、一のでしょうか。ところです。この中でも特に「自己をととのえるとは、具体的にはどんなう部分が大切です。 後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」 後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」	仏教に即して申しますと、有名なものとして、一のでしょうか。 、慎み深い人々は自己をととのえる」 、慎み深い人々は自己をととのえる」 、慎み深い人々は自己をととのえる」	仏教に即して申しますと、有名なものとして、一のでしょうか。 (、慎み深い人々は自己をととのえる。 (、慎み深い人々は自己をととのえる」 (、慎み深い人々は自己をととのえる」 (、慎み深い人々は自己をととのえる」 (、慎み深い人々は自己をととのえる。	仏教に即して申しますと、有名なものとして、一くる人は矢を矯(た)め、大工は木材を矯(た)め、大工は木材を矯(た)のでしょうか。 (一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢を	仏教に即して申しますと、有名なものとして、一くる人は矢を矯(た)め、大工は木材を矯(た)め、大工は木材を矯(た)のでしょうか。 (一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢を(一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢を気の記分の「慎み深い人々は自己をととのえる」 後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」 のでしょうか。	仏教に即して申しますと、有名なものとして、一 (一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢を (一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢を (一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢を (一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢を (一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢を (一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢を (一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢を (一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢を	教に即して申しますと、有名なものとして、一物に即して申しますと、有名なものとして、一切五)水道をつくる人は水をみちびき、矢をついにくい言葉は、ないと思います。大切なのの部分の「慎み深い人々は自己をととのえる。 の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」の部分の「慎み深い人々は自己をととのえるといます。大切なのの。 しません。まさしく、末法と言わなければなり	教に即して申しますと、有名なものとして、一つ、、彼らにはその意識すらないようです。この中でも特に「自己をととのえる」とかりにくい言葉は、ないと思います。大切なのは、自己をととのえる」につ部分の「慎み深い人々は自己をととのえる。」との部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」でしょうか。
のでしょうか。では、自己をととのえるとは、具体的にはどんな	のでしょうか。では、自己をととのえるとは、具体的にはどんなう部分が大切です。ところです。この中でも特に「自己をととのえる後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」	のでしょうか。のでしょうか。	のでしょうか。のでしょうか。	のでしょうか。 、慎み深い人々は自己をととのえる。 、慎み深い人々は自己をととのえる」	のでしょうか。 、慎み深い人々は自己をととのえる。 、慎み深い人々は自己をととのえる」 なかりにくい言葉は、ないと思います。大切なの う部分が大切です。 、慎み深い人々は自己をととのえる」 、慎み深い人々は自己をととのえる」	のでしょうか。 (一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢を のでしょうか。	のでしょうか。 (「四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢を (「四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢を の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」 後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」 後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」 のでしょうか。	のでしょうか。 が、彼らにはその意識すらないようです。 が、彼らにはその意識すらないようです。	でしょうか。 でしょうか。 しません。まさしく、末法と言わなければなり しません。まさしく、末法と言わなければなり	気で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、気で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、
は、自己をととのえるとは、具体的にはどんな	では、自己をととのえるとは、具体的にはどんなう部分が大切です。ところです。この中でも特に「自己をととのえる後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」	では、自己をととのえるとは、具体的にはどんなう部分が大切です。ところです。この中でも特に「自己をととのえる」後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」分かりにくい言葉は、ないと思います。大切なの	では、自己をととのえるとは、具体的にはどんなう部分が大切です。ところです。この中でも特に「自己をととのえる後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」分かりにくい言葉は、ないと思います。大切なの	では、自己をととのえるとは、具体的にはどんなところです。この中でも特に「自己をととのえる」後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」分かりにくい言葉は、ないと思います。大切なの、慎み深い人々は自己をととのえる。	では、自己をととのえるとは、具体的にはどんなう部分が大切です。この中でも特に「自己をととのえる」後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」、慎み深い人々は自己をととのえる」、ないと思います。大切なの、 慎み深い人々は自己をととのえる。	では、自己をととのえるとは、具体的にはどんなう部分が大切です。この中でも特に「自己をととのえる」後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」、慎み深い人々は自己をととのえる。、(一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢を	では、自己をととのえるとは、具体的にはどんなう部分が大切です。この中でも特に「自己をととのえる」後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」くる人は矢を矯(た)め、大工は木材を矯(た)、「四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢を	では、自己をととのえるとは、具体的にはどんなくる人は矢を矯(た)め、大工は木材を矯(た)め、大工は木材を矯(た)の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」ところです。この中でも特に「自己をととのえる」をころです。この中でも特に「自己をととのえる」が、彼らにはその意識すらないようです。	は、自己をととのえるとは、具体的にはどんなおうが大切です。この中でも特に「自己をととのえる」の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる。 (た)のうが大切です。この中でも特に「自己をととのえる」の部分が大切です。	は、自己をととのえるとは、具体的にはどんなこころです。この中でも特に「自己をととのえる」とかりにくい言葉は、ないと思います。大切なのはしません。まさしく、末法と言わなければなりまころです。この中でも特に「自己をととのえる」との部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」との部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」との部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」との部分が大切です。
	う部分が大切です。ところです。この中でも特に「自己をととのえる」後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と	う部分が大切です。ところです。この中でも特に「自己をととのえる」後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と分かりにくい言葉は、ないと思います。大切なのは	う部分が大切です。ところです。この中でも特に「自己をととのえる」後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と分かりにくい言葉は、ないと思います。大切なのは	う部分が大切です。ところです。この中でも特に「自己をととのえる」と後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と分かりにくい言葉は、ないと思います。大切なのは、慎み深い人々は自己をととのえる。	う部分が大切です。 、慎み深い人々は自己をととのえる」と その部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と 後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と る人は矢を矯(た)め、大工は木材を矯(た)め	う部分が大切です。 (一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢をつ (一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢をつ	う部分が大切です。 、慎み深い人々は自己をととのえる」と分かりにくい言葉は、ないと思います。大切なのは後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる。 、慎み深い人々は自己をととのえる」と	う部分が大切です。 が、彼らにはその意識すらないようです。 が、彼らにはその意識すらないようです。	部分が大切です。 ころです。この中でも特に「自己をととのえる の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」 かりにくい言葉は、ないと思います。大切なの 「「しません。まさしく、未法と言わなければなり	部分が大切です。 ころです。この中でも特に「自己をととのえる」と の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と
	後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と	後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と分かりにくい言葉は、ないと思います。大切なのは	後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と分かりにくい言葉は、ないと思います。大切なのは	後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と分かりにくい言葉は、ないと思います。大切なのは、慎み深い人々は自己をととのえる。	後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と分かりにくい言葉は、ないと思います。大切なのは、慎み深い人々は自己をととのえる。くる人は矢を矯(た)め、大工は木材を矯(た)め	後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と分かりにくい言葉は、ないと思います。大切なのは、慎み深い人々は自己をととのえる。(一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢をつ	後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と分かりにくい言葉は、ないと思います。大切なのはくる人は矢を矯(た)め、大工は木材を矯(た)め(一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢をつ	後の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」とくる人は矢を矯(た)め、大工は木材を矯(た)め、大工は木材を矯(た)め、木工は木材を矯(た)め、木工は木材を矯(た)め、ないと思いようです。が、彼らにはその意識すらないようです。	の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」かりにくい言葉は、ないと思います。大切なの「はみ深い人々は自己をととのえる。 (た)め、大工は木材を矯(た)の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる。	の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」とかりにくい言葉は、ないと思います。大切なのは慎み深い人々は自己をととのえる。 (た)め、大工は木材を矯(た)める人は矢を矯(た)め、大工は木材を矯(た)めの部分の「慎み深い人々は自己をととのえる。
です。この中でも特に「自己をととのえる」		かりにくい言葉は、ないと思います。大切なのは	かりにくい言葉は、ないと思います。大切なのは	分かりにくい言葉は、ないと思います。大切なのは慎み深い人々は自己をととのえる。	分かりにくい言葉は、ないと思います。大切なのは慎み深い人々は自己をととのえる。くる人は矢を矯(た)め、大工は木材を矯(た)め	分かりにくい言葉は、ないと思います。大切なのは、る人は矢を矯(た)め、大工は木材を矯(た)め、大工は木材を矯(た)め(一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢をつ	分かりにくい言葉は、ないと思います。大切なのは、る人は矢を矯(た)め、大工は木材を矯(た)め、大工は木材を矯(た)め(一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢をつ	かりにくい言葉は、ないと思います。大切なのは、四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢をつの人は矢を矯(た)め、大工は木材を矯(た)め、た工は木材を矯(た)めの方にはその意識すらないようです。	かりにくい言葉は、ないと思います。大切なの「「「」、「」では自己をととのえる。「「四五」、「」を矯(た)め、大工は木材を矯(た)「四五)、道をつくる人は水をみちびき、矢を「四五)、道をつくる人は水をみちびき、矢を	かりにくい言葉は、ないと思います。大切なのは、彼らにはその意識すらないようです。、彼らにはその意識すらないようです。、彼らにはその意識すらないようです。、彼らにはその意識すらないようです。
ころです。この中でも特に「自己をととのえる」、彼らにはその意識すらないようです。、彼らにはその意識すらないようです。、彼らにはその意識すらないようです。、彼らにはその意識すらないようです。、の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる。」とかりにくい言葉は、ないと思います。大切なのは「かりにくい言葉は、ないと思います。大切なのはの部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」との部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」との部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と	慎み深い人々は自己をととのえる。、、彼らにはその意識すらないようです。、彼らにはその意識すらないようです。、彼らにはその意識すらないようです。、彼らにはその意識すらないようです。、れ尊を信じるどころか、批判するようなこ	慎み深い人々は自己をととのえる。、、彼らにはその意識すらないようです。、彼らにはその意識すらないようです。、彼らにはその意識すらないようです。、彼らにはその意識すらないようです。、彼らにはその意識すらないようです。	る人は矢を矯(た)め、大工は木材を矯(た)め「四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢をつしません。まさしく、末法と言わなければなりましません。まさしく、末法と言わなければなりましません。まさしく、末法と言わなければなりま	一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢をつしません。まさしく、末法と言わなければなりましません。まさしく、末法と言わなければなりまえも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこ	、彼らにはその意識すらないようです。しません。まさしく、末法と言わなければなりま気で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、えも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこ	、彼らにはその意識すらないようです。しません。まさしく、末法と言わなければなりま気で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、えも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこ	しません。まさしく、末法と言わなければなりま気で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、えも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこ	平気で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、さえも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこ	さえも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこ	
ころです。この中でも特に「自己をととのえる」とかりにくい言葉は、ないと思います。大切なのは、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	、慎み深い人々は自己をととのえる。 、慎み深い人々は自己をととのえる。 、慎み深い人々は自己をととのえる。 (一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢をつ(一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢をつ(一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢をつ(しかし、現代では、僧団の中心となるいわゆる偉い	慎み深い人々は自己をととのえる。、彼らにはその意識すらないようです。、彼らにはその意識すらないようです。、彼らにはその意識すらないようです。、彼らにはその意識すらないようです。、彼らにはその意識すらないようです。	る人は矢を矯(た)め、大工は木材を矯(た)め、で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、気で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、気で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、れりよし、現代では、僧団の中心となるいわゆる偉い	一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢をつ、彼らにはその意識すらないようです。気で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、気で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、かし、現代では、僧団の中心となるいわゆる偉い	、彼らにはその意識すらないようです。しません。まさしく、末法と言わなければなりま気で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、えも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこかし、現代では、僧団の中心となるいわゆる偉い	、彼らにはその意識すらないようです。しません。まさしく、末法と言わなければなりま気で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、えも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこかし、現代では、僧団の中心となるいわゆる偉い	しません。まさしく、末法と言わなければなりま気で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、えも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこかし、現代では、僧団の中心となるいわゆる偉い	平気で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、さえも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこしかし、現代では、僧団の中心となるいわゆる偉い	さえも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこしかし、現代では、僧団の中心となるいわゆる偉い	かし、現代では、僧団の中心となるいわゆる偉い
。 。 。 。 。 。 。 こ の で す 。 こ の で す 。 こ の で す 。 こ の 中 で 古 、 枕 ら に は そ の 意 識 す ら な い と 思 い よ う で す 。 ま さ し く 、 末 法 と 言 わ な け れ ば な り ま せ ん 。 ま さ し く 、 末 法 と 言 わ な け れ ば な り ま せ ん し 、 、 末 法 と 言 わ な け れ ば な り ま せ ん し 、 、 末 法 と 言 わ な け れ ば な り ま せ ん し 、 、 末 法 と 言 わ な け れ ば な り ま せ ん し 、 、 末 法 と 言 わ な い よ う で す 。 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	慎み深い人々は自己をととのえる。 、彼らにはその意識すらないようです。 、彼らにはその意識すらないようです。 、彼らにはその意識すらないようです。 「四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢をつ「四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢をつ「四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢をつ「の五)水道をつくる人は水をみちびき、矢をつ「の五」、道をつくる人は水をみちびき、矢をつ	慎み深い人々は自己をととのえる。 、彼らにはその意識すらないようです。 、彼らにはその意識すらないようです。 、彼らにはその意識すらないようです。 、彼らにはその意識すらないようです。 、彼らにはその意識すらないようです。	る人は矢を矯(た)め、大工は木材を矯(た)め、皮工は木材を矯(た)め、大工は木材を矯(た)め、気で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、気で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、えも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこかし、現代では、僧団の中心となるいわゆる偉い。	一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢をつ、彼らにはその意識すらないようです。気で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、えも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこかし、現代では、僧団の中心となるいわゆる偉い。	、彼らにはその意識すらないようです。しません。まさしく、末法と言わなければなりま気で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、えも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこかし、現代では、僧団の中心となるいわゆる偉い。	、彼らにはその意識すらないようです。しません。まさしく、末法と言わなければなりま気で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、えも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこかし、現代では、僧団の中心となるいわゆる偉い。	しません。まさしく、末法と言わなければなりま気で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、えも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこかし、現代では、僧団の中心となるいわゆる偉い。	凤で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、スも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこかし、現代では、僧団の中心となるいわゆる偉い	スも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこかし、現代では、僧団の中心となるいわゆる偉い	かし、現代では、僧団の中心となるいわゆる偉い
。 の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と しません。まさしく、末法と言わなければなりま しません。まさしく、末法と言わなければなりま しません。まさしく、末法と言わなければなりま しません。まさしく、未法と言わなければなりま しません。まさしく、未法と言わなければなりま しません。まさしく、未法と言わなければなりま しませんし、 の部分の「慎み深い人々は自己をととのえる」と	「 慎み深い人々は自己をととのえる。 「 四五」水道をつくる人は水をみちびき、矢をつ って書きますし、戒律はほとんど守りませんし、 えも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこ かし、現代では、僧団の中心となるいわゆる偉い 、彼らにはその意識すらないようです。 、彼らにはその意識すらないようです。 の 一四五」水道をつくる人は水をみちびき、矢をつ る人は矢を矯(た)め、大工は木材を矯(た)め	慎み深い人々は自己をととのえる。 、彼らにはその意識すらないようです。 、彼らにはその意識すらないようです。 、彼らにはその意識すらないようです。 の一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢をつくる人は矢を矯(た)め、大工は木材を矯(た)め、教学りませんし、 うで書きますし、戒律はほとんど守りませんし、 のしません。まさしく、未法と言わなければなりま しません。まさしく、未法と言わなければなりま しません。まさしく、未法と言わなければなりま しません。まさしく、未法と言わなければなりま しません。まさしく、未法と言わなければなりま	る人は矢を矯(た)め、大工は木材を矯(た)め、大工は木材を矯(た)め、て書きますし、戒律はほとんど守りませんし、えも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこたも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこかし、現代では、僧団の中心となるいわゆる偉い。	一四五)水道をつくる人は水をみちびき、矢をつ、彼らにはその意識すらないようです。、彼らにはその意識すらないようです。。	、彼らにはその意識すらないようです。しません。まさしく、末法と言わなければなりま気で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、えも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこかし、現代では、僧団の中心となるいわゆる偉い。	、彼らにはその意識すらないようです。しません。まさしく、末法と言わなければなりま気で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、えも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこかし、現代では、僧団の中心となるいわゆる偉い。	しません。まさしく、末法と言わなければなりま気で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、えも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこかし、現代では、僧団の中心となるいわゆる偉い。	凤で書きますし、戒律はほとんど守りませんし、スも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこかし、現代では、僧団の中心となるいわゆる偉い务力するわけです。それが、僧団ということにな	えも、釈尊を信じるどころか、批判するようなこかし、現代では、僧団の中心となるいわゆる偉い务力するわけです。それが、僧団ということにな	かし、現代では、僧団の中心となるいわゆる偉い労力するわけです。それが、僧団ということにな

ばかりなのです。	ものは、一つもありません。「自己をととのえる」もの	るものばかりです。他人を制御しなければ実現できない	これら全ての徳目は、自分の精神のあり方で実現でき
されて、世の中も変わってくるのです。 されて、世の中も変わった見方で見ていますと、それに影響その世の中を変わった見方で見ています。そして、れないから、弱代人のとても顕著な特徴があるのです。自分の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。自す。自分の精神のあり方は問題にはならないのです。自す。自分の精神のあり方は問題にはならないのです。して、ここに、現代人のとても顕著な特徴があるのです。 して、現代人のとても顕著な特徴があるのです。 ここに、現代人のとても顕著な特徴があるのです。 されて、世の中も変わった見方で見ていますと、それに影響	て、世の中も変わってくるのです。 て、世の中も変わった見方で見ていますと、それに で、現代人のとても顕著な特徴があるのです。 ちこうするから、自分が不幸だと思っています。 そのとき自分は全て棚上げに なが、姑が、嫁が、思うようにしてくれないから、 自分の精神のあり方は問題にはならないのです。 たと言います。そのとき自分は全て棚上げに なが、姑が、感が、思うようにしてくれないから、あるい 、現代人のとても顕著な特徴があるのです。 たいかない原因だとは思わないのです。 ないかない原因だとは思わないのです。 で、世の中も変わった見方で見ています。 も分を不 して、世の中も変わった見方で見ています。 をれに	れて、世の中も変わってくるのです。 れて、世の中も変わってくるのです。 れて、世の中も変わった見方で見ていますと、それに の世の中を変わった見方で見ていますと、それに の世の中を変わった見方で見ています。そし で っこに、現代人のとても顕著な特徴があるのです。 こに、現代人のとても顕著な特徴があるのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 のじの中を変わった見方で見ていますと、それに	れて、世の中も変わってくるのです。 れて、世の中も変わってくるのです。 れて、世の中も変わって見ていますと、それに の世の中を変わった見方で見ていますと、それに の世の中を変わった見方で見ています。そし の世の中も変わって見ています。そし の世の中も変わって見ています。そし の世の中も変わってくるのです。
世の中を変わった見方で見ていますと、それに世の中を変わった見方で見ていますと、それにが、姑が、嫁が、思うようにしてくれないから、連れ合いが自分を愛してくれないから、あるいが、姑が、嫁が、思うようにしてくれないから、あそのとき自分は全て棚上げに幸だと言います。そのとき自分は全て棚上げにす。そのとする傾向を、益々、強めています。自分を不代人は、いま他人を制御することで自分が幸せ	の世の中を変わった見方で見ていますと、それに で、現代人のとても顕著な特徴があるのです。 こうこうするから、自分が不幸だと思っています。 そのとき自分は全て棚上げに 不幸だと言います。そのとき自分は全て棚上げに 不幸だと言います。そのとき自分は全て棚上げに で幸だと言います。そのとき自分は全て棚上げに の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 こに、現代人のとても顕著な特徴があるのです。 も分の精神のあり方は問題にはならないのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。	の世の中を変わった見方で見ていますと、それに で、現代人のとても顕著な特徴があるのです。 で、現代人のとても顕著な特徴があるのです。 に、現代人のとても顕著な特徴があるのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 のけ、一つもありません。「自己をととのえる」	の世の中を変わった見方で見ていますと、それに のは、一つもありません。「自己をととのえる」 のは、一つもありません。「自己をととのえる」 のは、一つもあり方は問題にはならないのです。 ここ、現代人のとても顕著な特徴があるのです。 で方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 「自分の精神のあり方は問題にはならないのです」 でっこうするから、自分が不幸だと思っています。 自分の精神のあり方は問題にはならないのです。 でっこそうまくいかない原因だとは思わないのです。 してくれないから、あるい です。 での方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 でして、現代人のとても顕著な特徴があるのです。 として、現代人のとても顕著な特徴があるのです。 して、現代人のとても顕著な特徴があるのです。 での方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 での方にしてくれないから、あるい
の中は、自分が変われば変わって見えます。そしの中は、自分が変われば変わって見えます。そしこうするから、自分が不幸だと思っています。そのとき自分は全て棚上げにすだと言います。そのとき自分は全て棚上げにする傾向を、益々、強めています。自分を不代人は、いま他人を制御することで自分が幸せ	世の中は、自分が変われば変わって見えます。そして、現代人のとても顕著な特徴があるのです。こうこうするから、自分が不幸だと思っています。そのとき自分は全て棚上げには、連れ合いが自分を愛してくれないから、あるいば、連れ合いが自分を愛してくれないから、あるいば、連れ合いが自分を愛してくれないから、あるいですとさる傾向を、益々、強めています。自分を不現代人は、いま他人を制御することで自分が幸せかりなのです。	世の中は、自分が変われば変わって見えます。そして、現代人のとても顕著な特徴があるのです。うとする傾向を、益々、強めています。自分を不幸だと言います。そのとき自分は全て棚上げに不幸だと言います。そのとき自分は全て棚上げに「「、現代人は、いま他人を制御することで自分が幸せかりなのです。そのとき自分は全て棚上げにです。こに、現代人のとても顕著な特徴があるのです。 こに、現代人のとても顕著な特徴があるのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。	世の中は、自分が変われば変わって見えます。そして、現代人のとても顕著な特徴があるのです。 で、「「「「」」」です。他人を制御することで自分が幸せれて、「」」です。」」」」」」で、「」」」」」」で、「」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」
に、現代人のとても顕著な特徴があるのです。「「「「「「「」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」	こに、現代人のとても顕著な特徴があるのです。。自分の精神のあり方は問題にはならないのです。うとする傾向を、益々、強めています。自分を不幸だと言います。そのとき自分は全て棚上げにば、連れ合いが自分を愛してくれないから、あるいば、連れ合いが自分を愛してくれないから、あるいですとまれ合いが自分を愛してくれないから、あるいですとしています。自分を不明代人は、いま他人を制御することで自分が幸せかりなのです。	こに、現代人のとても顕著な特徴があるのです。 うとする傾向を、益々、強めています。自分の精神のあり方は問題にはならないのです」 でうこうするから、自分が不幸だと思っています。 も分の精神のあり方は問題にはならないのです」 ですだと言います。そのとき自分は全て棚上げに で幸だと言います。そのとき自分は全て棚上げに ですだと言います。そのとき自分は全て棚上げに の方こそうまくいかない原因だとは思わないから、あるい の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです」 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。	こに、現代人のとても顕著な特徴があるのです。 のは、一つもありません。「自己をととのえる」 のは、一つもありません。「自己をととのえる」 のは、一つもありません。「自己をととのえる」 の方こそうまくいかない原因だとは思わないのです です。 ものばかりです。他人を制御することで自分が幸せ かりなのです。 の方こそうまくいかない原因だとは思わないから、あるい ですだと言います。そのとき自分は全て棚上げに ですだと言います。そのとき自分は全て棚上げに ですだと言います。そのとき自分は全て棚上げに ですだと言います。そのとき自分は全て棚上げに
方こそうまくいかない原因だとは思わないのです。 すれ合いが自分を愛してくれないから、あるいが、姑が、嫁が、思うようにしてくれないから、 うこうするから、自分が不幸だと思っています。 くは、あの人がこうこうしてくれないから、あるい くは、あの人がこうこうしてくれないから、あるい くは、あの人がこうこうしてくれないから、あるい	の方こそうまくいかない原因だとは思わないので。自分の精神のあり方は問題にはならないのです」こうこうするから、自分が不幸だと思っています。そのとき自分は全て棚上げにば、連れ合いが自分を愛してくれないから、あつ人がこうこうしてくれないから、あつ人がこうこうしてくれないから、あつしてくれないから、あるいです。他人を制御することで自分が幸せかりなのです。	の方こそうまくいかない原因だとは思わないので。自分の精神のあり方は問題にはならないのです。こうこうするから、自分が不幸だと思っています。そのとき自分は全て棚上げにはが、姑が、嫁が、思うようにしてくれないから、あろ人は、あの人がこうこうしてくれないから、あつ人が、姑が、嫁が、思うようにしてくれないから、あるいです。。自分の精神のあり方は問題にはならないのです。のは、一つもありません。「自己をととのえる」	の方こそうまくいかない原因だとは思わないので。自分の精神のあり方は問題にはならないのです。 ですっこうするから、自分が不幸だと思っています。 そのとき自分は全て棚上げに で幸だと言います。そのとき自分は全て棚上げに で幸だと言います。そのとき自分は全て棚上げに です。 のは、一つもありません。「自己をととのえる」 ものばかりです。他人を制御しなければ実現でき
自分の精神のあり方は問題にはならないのです。 幸だと言います。そのとき自分は全て棚上げに 、連れ合いが自分を愛してくれないから、あるいうこうするから、自分が不幸だと思っています。 人は、あの人がこうこうしてくれないから、あるい くは、あの人がこうこうしてくれないから、あるい	。自分の精神のあり方は問題にはならないのです。「「「「」」」」では、「「」」」」」では、「」」」」」」」」」」」」」」」」」」	。自分の精神のあり方は問題にはならないのです。「「「」」」では、「」」」」では、「」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」	。自分の精神のあり方は問題にはならないのです。 のは、一つもありません。「自己をととのえる」 のは、一つもありません。「自己をととのえる」 ものばかりです。他人を制御することで自分が幸せ れらいが自分を愛してくれないから、あるい です。 ものばかりです。他人を制御しなければ実現でき
幸だと言います。そのとき自分は全て棚上げにが、姑が、嫁が、思うようにしてくれないから、連れ合いが自分を愛してくれないから、あるいうこうするから、自分が不幸だと思っています。人は、あの人がこうこうしてくれないから、あとする傾向を、益々、強めています。自分を不代人は、いま他人を制御することで自分が幸せ	不幸だと言います。そのとき自分は全て棚上げに供が、姑が、嫁が、思うようにしてくれないからこうこうするから、自分が不幸だと思っています。う人は、あの人がこうこうしてくれないから、あうとする傾向を、益々、強めています。自分を不現代人は、いま他人を制御することで自分が幸せかりなのです。	不幸だと言います。そのとき自分は全て棚上げに供が、姑が、嫁が、思うようにしてくれないからうとする傾向を、益々、強めています。自分を不うくし、あの人がこうこうしてくれないから、あつ人は、いま他人を制御することで自分が幸せかりなのです。	不幸だと言います。そのとき自分は全て棚上げに供が、姑が、嫁が、思うようにしてくれないからうとする傾向を、益々、強めています。自分をする傾向を、益々、強めています。自分を不うくは、あの人がこうこうしてくれないから、あう人は、いま他人を制御することで自分が幸せかりなのです。他人を制御しなければ実現できものばかりです。他人を制御しなければ実現でき
が、姑が、嫁が、思うようにしてくれないから、、連れ合いが自分を愛してくれないから、あるいはうこうするから、自分が不幸だと思っています。人は、あの人がこうこうしてくれないから、あるとする傾向を、益々、強めています。自分を不幸代人は、いま他人を制御することで自分が幸せに	供が、姑が、嫁が、思うようにしてくれないから、は、連れ合いが自分を愛してくれないから、あるいはこうこうするから、自分が不幸だと思っています。うとする傾向を、益々、強めています。自分を不幸現代人は、いま他人を制御することで自分が幸せにかりなのです。	供が、姑が、嫁が、思うようにしてくれないから、は、連れ合いが自分を愛してくれないから、あるいはこうこうするから、自分が不幸だと思っています。うとする傾向を、益々、強めています。自分を不幸現代人は、いま他人を制御することで自分が幸せにかりなのです。	供が、姑が、嫁が、思うようにしてくれないから、供が、姑が、嫁が、思うようにしてくれないから、あるいはこうこうするから、自分が不幸だと思っています。うとする傾向を、益々、強めています。自分を不幸現代人は、いま他人を制御することで自分が幸せにかりなのです。他人を制御しなければ実現できなものばかりです。他人を制御しなければ実現できな
ば、連れ合いが自分を愛してくれないから、あるいはこうこうするから、自分が不幸だと思っています。う人は、あの人がこうこうしてくれないから、あるうとする傾向を、益々、強めています。自分を不幸現代人は、いま他人を制御することで自分が幸せに	ば、連れ合いが自分を愛してくれないから、あるいはこうこうするから、自分が不幸だと思っています。うとする傾向を、益々、強めています。自分を不幸現代人は、いま他人を制御することで自分が幸せにかりなのです。	ば、連れ合いが自分を愛してくれないから、あるいはこうこうするから、自分が不幸だと思っています。うとする傾向を、益々、強めています。自分を不幸現代人は、いま他人を制御することで自分が幸せにかりなのです。	ば、連れ合いが自分を愛してくれないから、あるいはこうこうするから、自分が不幸だと思っています。うとする傾向を、益々、強めています。自分を不幸現代人は、いま他人を制御することで自分が幸せにかりなのです。 した、一つもありません。「自己をととのえる」もものばかりです。他人を制御しなければ実現できな
こうするから、自分が不幸だと思っています。は、あの人がこうこうしてくれないから、あるする傾向を、益々、強めています。自分を不幸人は、いま他人を制御することで自分が幸せに	こうこうするから、自分が不幸だと思っています。う人は、あの人がこうこうしてくれないから、あるうとする傾向を、益々、強めています。自分を不幸現代人は、いま他人を制御することで自分が幸せにかりなのです。	こうこうするから、自分が不幸だと思っています。う人は、あの人がこうこうしてくれないから、あるうとする傾向を、益々、強めています。自分を不幸現代人は、いま他人を制御することで自分が幸せにかりなのです。	こうこうするから、自分が不幸だと思っています。う人は、あの人がこうこうしてくれないから、あるうとする傾向を、益々、強めています。自分を不幸現代人は、いま他人を制御することで自分が幸せにかりなのです。他人を制御しなければ実現できなものばかりです。他人を制御しなければ実現できな
は、あの人がこうこうしてくれないから、あるする傾向を、益々、強めています。自分を不幸人は、いま他人を制御することで自分が幸せに	う人は、あの人がこうこうしてくれないから、あるうとする傾向を、益々、強めています。自分を不幸現代人は、いま他人を制御することで自分が幸せにかりなのです。	う人は、あの人がこうこうしてくれないから、あるうとする傾向を、益々、強めています。自分を不幸現代人は、いま他人を制御することで自分が幸せにかりなのです。	う人は、あの人がこうこうしてくれないから、あるうとする傾向を、益々、強めています。自分を不幸現代人は、いま他人を制御することで自分が幸せにかりなのです。 ものは、一つもありません。「自己をととのえる」もものばかりです。他人を制御しなければ実現できな
する傾向を、益々、強めています。自分を不幸人は、いま他人を制御することで自分が幸せに	うとする傾向を、益々、強めています。自分を不幸現代人は、いま他人を制御することで自分が幸せにかりなのです。	うとする傾向を、益々、強めています。自分を不幸現代人は、いま他人を制御することで自分が幸せにかりなのです。のは、一つもありません。「自己をととのえる」も	うとする傾向を、益々、強めています。自分を不幸現代人は、いま他人を制御することで自分が幸せにかりなのです。
代人は、いま他人を制御することで自分が幸せに	現代人は、いま他人を制御することで自分が幸せにかりなのです。	現代人は、いま他人を制御することで自分が幸せにかりなのです。のは、一つもありません。「自己をととのえる」も	現代人は、いま他人を制御することで自分が幸せにかりなのです。のは、一つもありません。「自己をととのえる」もものばかりです。他人を制御しなければ実現できな
	かりなの	かりなのです。のは、一つもありません。「自己をととのえる」も	かりなのです。のは、一つもありません。「自己をととのえる」もものばかりです。他人を制御しなければ実現できな
のは、一つもありません。「自己をととのえる」もものばかりです。他人を制御しなければ実現できなこれら全ての徳目は、自分の精神のあり方で実現で	ものばかりです。他人を制御しなければ実現できなこれら全ての徳目は、自分の精神のあり方で実現で	れら全ての徳目は、自分の精神のあり方で実現で	
のは、一つもありません。「自己をととのえる」もものばかりです。他人を制御しなければ実現できなこれら全ての徳目は、自分の精神のあり方で実現で不慳貪、 不瞋恚、 不邪見、です。	ものばかりです。他人を制御しなければ実現できなこれら全ての徳目は、自分の精神のあり方で実現で不慳貪、 不瞋恚、 不邪見、です。	れら全ての徳目は、自分の精神のあり方で実現で慳貪、 不瞋恚、 不邪見、です。	慳貪、 不瞋恚、 不邪見、で
のは、一つもありません。「自己をととのえる」もものばかりです。他人を制御しなければ実現できなこれら全ての徳目は、自分の精神のあり方で実現で不慳貪、 不瞋恚、 不邪見、です。不邪淫、 不妄語、、 不綺語、 不悪口、 不両舌	ものばかりです。他人を制御しなければ実現できなこれら全ての徳目は、自分の精神のあり方で実現で不慳貪、 不瞋恚、 不邪見、です。不邪淫、 不妄語、、 不綺語、 不悪口、 不両舌	れら全ての徳目は、自分の精神のあり方で実現で慳貪、 不瞋恚、 不邪見、です。邪淫、 不妄語、、 不綺語、 不悪口、 不両舌	慳貪、 不瞋恚、 不邪見、です。邪淫、 不妄語、、 不綺語、 不悪口、 不

第一一章 老いること

いのか?	汝らは暗黒に覆われている。どうして燈明を求めな	か? 世間は常に燃え立っているのに 。	(一四六)何の笑いがあろうか。何の歓びがあろう
------	-------------------------	---------------------	-------------------------

代人にこそふさわしい なくなってしまっているのです。 なくなり、この世が「 で有名ですが、 なことなのでしょうか。 さ し これてい 以 下、 諸 て、「笑い、 現 行無 在の日本人は、 少 し 、ます「 常」)解説 のことなのです。 歓んで」います。 仏教の考え方の真髄を表すものとして、 世間は常に燃え立っている」 して行きます。 多くが中流意識をもち、 偈だと言えます。 諸行無常」 実は、それが、 この言葉は この偈は、 そして、 まず、 であることにも気付け いま述べました ハイフンで挿入 神や仏 5 とは、どん こうした現 平家物語』 生活に満足 心を信じ

る る 存在や現 ところが そ の 意味ですが、 象は、 な Ņ ということです。 物 が燃えるように、 偈にありますように、 常 に変化 世 間 о して止ま あらゆ

よく言及され

!ます。

なのに、人間は自己の生命の維持発展をどこまでも願

です。 もの たが、 な っ ることに対して、 ζ も を恒常だと考える、 のと考えてし そ そ 自己の生命 れに Ø う執らわ. 執らわ この執らわ n 維 まうのです。 ц わてし 持の可能 そのギャップの中に存 L١ ま生命 まい れが現れてきます。 性を拡張するようなあ います。 多くの に うい 苦し 自己の ての み み言い ιţ 生命を 戸在する 無 まし 5 常 恒 Þ ወ な 常

ц と言えるのです。 に れ 出世欲など、 とする種族保存欲、優越欲を中心とする権力欲、 になり、 が人間関係を悪化させ、 食 こうした執らわれの事実で、 欲 をはじめとする 殺し合いが起こります。 すべての欲望が執らわれの対象となり、 物 欲 争いを産み、 経済 こ れ 華々しく彩られてい 的 ?欲求)、 ま での 発展すれば戦 性 人類の歴 名誉欲、 欲 を 中 そ 史 争 心 る

明 n して燈明を求めないの きないというわけです。 を τ 私 偈 求めないかぎり、 いることを無明 に戻りますと、「汝らは暗黒に覆わ たち人間にとって燈明とは何な と言ってい が 失 という部分で 苦しみから逃れることは ますが、 h でしょ す 無 明 れ τ うか。 暗黒に覆わ を照らす燈 11 ຣູ どう そ れ で

さ え は まなのです。修行してそれを磨きだしましょう。 るようにしてくれる「 ` ¬ 自己」 を明るみへ連れ出し 他 己 ۲, 特に ζ 自 そ 分を客観的 Ø 中 ወ 如 来 に 見

四、皆さんもどうかヨーガをお続け下さい。しているお陰だと思います。	〇歳代の総合得点は、五~八点です。これも、ヨーガを	いました。自分でも驚きました。因みに、私の属する五	歳代の体力で、優れている」ですが、私はそれを超えて	点で、総合評価の表を見ますと、「一七~二〇点が二〇	たが、他はすべて最高点の五点でした。合計得点が二四	とび)の五項目でした。評点では、 瞬発力が四点でし	位体前屈)、 敏捷性 (反復横跳び)、 瞬発力 (垂直	(握力)、 背中と腰の筋力 (背筋力)、 柔軟性 (立	人の勧めで、体力測定をしてもらいました。 腕の筋力	三、また、八月、町のアウトドアー・フェスティバルで、	います。今後も、節制を続けていきたいと思っています。	せんでした。ヨーガ、食養生、運動、減量の効果だと思	などをしてもらいましたが、どこも悪いところはありま	血液検査 (貧血、 肝機能、 脂質、 血糖、 腎臓)、 尿検査	二、七月に町の健康診断で、血圧、心電図、眼底撮影、	医者の言う通りの節制に勤めてきました。	りているということで、糖尿病の直るヨー ガを毎日し、	者に診てもらいました。生まれてはじめて、尿に糖が下	一、昨年十一月に、不覚にも疲労から体調をくずし、医	後記
-----------------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	------------------------------	-----------------------------	---------------------------	----------------------------	----------------------------	---------------------------	---------------------------	-----------------------------------	---------------------------	---------------------	----------------------------	---------------------------	---------------------------	----

「社会的に申し分ない状態」を問題にしました。	状態であること)から話を発展させていきました。	く、身体的にも精神的にも、また社会的にも申し	の健康の定義(単に病気や虚弱でないというだけ	六、その時の話の内容ですが、世界保健機構(w	申込みを頂きました。	紹介させて頂きましたところ、予想外に多くの方	に聞いて下さいました。また、この『こころのと	した。一五〇人ほどの聴衆がありましたが、みん	研修大会で、「心の健康」と題して講演をさせて	五、九月の初め、徳島県阿波町で開かれた婦人同
		申	だ			σ	σ		せ	人

	次	本				<u>44</u>	_	
	の口座にお振	・誌希望の方は	六十九号)	(通巻	九月号	第 六 巻	こころのとも	月刊
	り 认	、郵	~ 7)		鳴	徳	Ŧ	平
	込 み	送	び		門教	島 県	7 7	成十
	下さ	料	き		教 育	鳴	2	年
;	さい	料として	ひびきのさと		大学	門	0	七年九月八
	0		ح		子	市 鳴	8 5	月 八
	加 入	郵	沙		障	門	0	日
	者	便 振	門		害児教育講	町 高	2	
	名	替) 中		教	同島		
)	7)	替 で 年	田塚		育			
	ひびきの	間 千		+f	 一座 気			
	きの	十円	善善	しんじょ	気			
	さ	を	成	う	付			